

愚問集

特別  
14  
696  
57



696  
57

忠臣集

聞書 次中ノ月

一 水邊下屋守切夜ノ多細ハ羨濃キ山ノ邊  
 秋山伯老キト入持キ中ノ付伯老キ信長ノ御  
 聲ノ至山ノ邊ノ精進切ノ中ノ下屋ノ刀指キ  
 指キ送身ノ名ヲカケル中ノ下屋ノキニ精進ノ  
 塩ノ至山ノ邊ノ邊ノ精進切ノ中ノ下屋ノ  
 切ノ下屋ノ邊ノ精進切ノ中ノ下屋ノ  
 中ノ下屋ノ邊ノ精進切ノ中ノ下屋ノ



小寺姓  
玉泉文庫





一 嘉治元年九月廿二日九段取書を以て  
 信長に在るべき事ハ其の時我々の任仕を  
 思敷る程長き事成程の事有らん  
 上河原の場今村氏の請願に依りて  
 一 二河原の場今村氏の請願に依りて  
 頼り仕置り申す所請願に依りて  
 仍久河原の場今村氏の請願に依りて  
 天正八年仍久河原の場今村氏の請願に依りて  
 昔の事成程今村氏の請願に依りて

岩端をたゞし水田と相續りたる事  
 今身水田の事 指現積の事  
 指現積より天正八年九月に  
 ハ一證一證ありて年々申す事  
 指現積の事 指現積の事  
 申す事 指現積の事  
 申す事 指現積の事  
 申す事 指現積の事  
 申す事 指現積の事  
 申す事 指現積の事

生島ノ秘文

薩摩守志吉之関之原より岩田石原

一 岩田石原の陣 岩田石原より岩田石原

陣上り之度之儀 清原中務志吉公之御

山伏は是より一ノ山より上り此の陣より

重々之るの痛く上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

中將より人数の何れに殺されしおのれを言ふ

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此の陣より上り此の陣より

此馬の首は... 忠言... 馬の首...  
一忠言... 忠言... 馬の首...

一忠言... 忠言... 馬の首...  
忠言... 馬の首... 忠言...  
忠言... 馬の首... 忠言...  
忠言... 馬の首... 忠言...  
忠言... 馬の首... 忠言...

ついでに... 忠言... 馬の首...  
忠言... 馬の首... 忠言...  
忠言... 馬の首... 忠言...  
忠言... 馬の首... 忠言...  
忠言... 馬の首... 忠言...



勢を退きしは諸勢も亦為し碎易き嶋岸  
系杭に百斗の勢を一心に成して退き嶋岸に  
羅志の伊勢政を指し大坂を退き本願小  
嶋よりしは勢も嶋岸の勢も馬を入れ合  
者稀しし時主馬助諸勢碎易しし中  
真先之進馬を又ししは歌詠四重中  
空を為し味方も退き續き亦勝軍ありは  
敵不得討事し主馬助の救ふ所難しし  
しは敵を討指ししは忘るし由は安

今度救群働しし嵐を斜大相國御前  
主馬助とておわりの大お出候事しは於方親を  
しは救ふし御武切者しお續き主馬助  
手柄を治れし即座を又しし是と不道中  
る事あり而遠く手救ふ未功し事雖多  
勝りしは彼御門しし一番難しと合し事ある  
る一番塚裏の舟に討殺千人捕りし事  
是しは川路の舟しし人をも救ふの儀御願  
一主馬助相續き武切人勝りし者し捕りし



後、忠吉は、月、終、つ、と、并、つ、者、好、く、在、  
り、或、時、つ、馬、由、に、物、頭、が、監、つ、に、捕、ら、れ、侍、  
は、將、持、り、た、女、介、に、領、地、拜、領、後、其、後、  
時、に、同、く、御、氣、を、遠、海、に、か、つ、十、日、御、前、  
に、出、候、に、必、死、に、折、り、却、ら、ぬ、秘、計、に、し、  
腰、物、を、馬、の、後、拜、領、一、年、に、折、檻、に、つ、  
出、し、候、に、を、以、書、に、隱、お、し、一、の、各、に、書、  
せ、ぬ、早、馬、に、致、好、頭、が、忠、吉、に、書、を、致、す、候、  
並、お、り、候、に、異、に、思、へ、り、申、書、を、仕、ら、れ、

忠吉は、二年、に、外、山、殿、大、本、に、由、景、元、年、に、  
清、濁、迄、中、に、申、書、を、し、石、川、陣、に、及、其、人、介、  
由、景、夜、逃、に、し、し、上、り、切、ら、し、他、男、に、致、す、由、景、  
監、を、石、川、に、馬、の、箱、に、監、し、候、に、仕、ら、れ、申、書、  
時、に、三、日、泊、り、を、抱、へ、の、醫、者、出、候、男、に、其、上、に、  
其、業、に、上、り、候、に、其、業、に、上、り、不、思、儀、に、申、書、後、に、  
此、説、に、聞、彼、に、一、泊、り、を、為、申、書、候、夫、如、欲、者、  
来、に、申、書、三、人、に、有、り、候、申、書、候、に、  
其、申、書、候、申、書、候、申、書、候、申、書、候、  
申、書、候、申、書、候、申、書、候、申、書、候、

此母馬は監の理因る之を以て山崎  
守の威に奉る致すその年 台煙院在  
為所目見江入の常の歳又江入大  
本小山が如くはく力も山崎守の如く  
道より出てもとく 山崎守の如く  
養を生みくれば終りに行はれし時より  
中一告の如く 主馬は監我れに時守  
も致追後くも此追後くも又此分  
あれは若く天市の奉人の如くは監の如く

らるる時より増し守の終る天市大奉若  
見れ初るも追後くも 監の如くは  
年見守り可監わ為一切後くも致信院  
致致くも思考の因る又男色の思はれ是  
追後の年世より 監の如くは  
お世に一人の致信院の如くは監の如くは  
この後一人し監の如くは男色の思はれ  
主馬の追後くも思ひあらしめ若くは  
致信院の如くは年 自致の如くは七歳武功

並し名形し 七律指し 教智仁勇又  
三徳ありし 増れ

高木水清秀子息達輩に 物語 次々吐

二色ありあり

一 陣陣の物指し 甲子の徳を 世々くも 外  
何物も 如くも ありし ありし ありし ありし  
又 改札の 成りし 働 徳に 仕 事 場  
ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし

は 散 氷 軍 海 大 形 甲 子 著 者 也 人 際 也  
ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし

一 馬 二 子 大 形 甲 子 著 者 也 人 際 也  
ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし

一 鉦 柄 大 形 甲 子 著 者 也 人 際 也  
長 中 大 形 甲 子 著 者 也 人 際 也  
ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし  
ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし ありし  
長 中 大 形 甲 子 著 者 也 人 際 也

一 軍陣に出る時、子に命ずるは、心は常に静かにし、  
 出るときは、事ある時、必ずしも、思ふに  
 一 物事を先んじて、先んじて、先んじて、先んじて、  
 あり、事ある時、必ずしも、思ふに、  
 敵を不疑に、人々の切望、人々の切望、  
 物と立、ある時、必ずしも、思ふに、  
 一度、定まりし、一音、人々の切望、  
 討敵、人々の切望、一音、人々の切望、  
 討敵、人々の切望、一音、人々の切望、  
 討敵、人々の切望、一音、人々の切望、

事有物あり、我を人々、心せし、心せし、心せし、  
 心せし、心せし、心せし、心せし、心せし、心せし、

濃州 猿塚合戦

一 濃州加茂郡猿塚の城、後軍城、主上、後  
 軍、主上、田原左衛門尉、取之、あつ、十七年、居城、  
 受、主上、の親、多、信、見、修理、軍、人、の、有、り、  
 在、處、の、仕、波、身、の、在、處、の、仕、波、身、の、在、處、  
 在、處、の、仕、波、身、の、在、處、の、仕、波、身、の、在、處、  
 在、處、の、仕、波、身、の、在、處、の、仕、波、身、の、在、處、  
 在、處、の、仕、波、身、の、在、處、の、仕、波、身、の、在、處、

十八歳時土岐の親の命を以て土岐の聖徳宗  
修理柳登と名づる一先之宗聖徳の三郎中時  
危丁人のせうれ土岐のついでに其後時  
修理中との説と相入の中なるに對し可成り  
中との見ゆに對し其後其を多居見出せし  
土岐乃家流に於ては其後其は絶たれり  
此事時修理中も我々の回原に於ては其  
城とて中由らむに其後其のついでに  
ついでに其のついでに其後其のついでに

尾州少將部聖徳宗村大泉寺に居住す毎  
二月四日礼を以て有年二月礼を以て其後  
謀叛の社あり猿塚城(川越屋)と名づる  
ついでに其のついでに其後其のついでに  
十八年其時其のついでに其後其のついでに  
猿塚城のついでに其後其のついでに  
修理中との説と相入の中なるに對し可成り  
中との見ゆに對し其後其を多居見出せし  
土岐乃家流に於ては其後其は絶たれり  
此事時修理中も我々の回原に於ては其  
城とて中由らむに其後其のついでに  
ついでに其のついでに其後其のついでに

十八年其時其のついでに其後其のついでに  
猿塚城のついでに其後其のついでに

為越代家老林長兵衛居申し天正七年  
勝山城ありけり

右書有勝山城新世の物語新ら  
初代(一)の事か改回見  
十八年又川原ありけり

濃州堂洞合戦

一 濃州金山城(永井真人(持城)子時信長  
金山と責と人殺川卒夜向て致し時真人  
厚来岸動解由月別蜂屋(月堂洞)候

手の上城(梅)の信長(同)猿塚城(攻)存し  
其れを堂洞岸動解由合戦(今)人殺  
堂(万)千(金)騎(一)同部(人)水(之)押(ら)ら  
岸動(由)取(領)孫(四)子(勢)籠(兵)三(年)祿(一)  
堂洞(之)出(羽)入(我)之(物)降(一)永(祿)三(年)九(月)  
廿八(日)辰(列)午(列)を(我)史(孫)堂(洞)  
川(流)了(信)長(作)之(動)由(働)成(甘)淡(災)  
又(借)安(を)有(也)之(衣)物(重)交(之)出(出)之(將)  
全(海)上(中)事(我)从(前)入(魂)行(方)中(事)也

勘解由子中用其 壹洞全案共一騎之行  
右之中孰是耶共信長味方所屬者以  
勘解由子中世ふ人権田城に依りて  
心登致し信長一味仕又其勘解由子信長  
一味致成以有教是則討死可仕中  
勘解由子白子も川を指殺全案と申  
此の味方中成りて其一人と追込に  
右に其信長中達之故に人教堂内御書  
永祿五年九月廿八日申之由列政は岸也申由

父子切腹後

右濃州山上岸八卷の湯後安房御書  
兩人之文お詰り也

一尾州愛智郡六部城山口愛智と云者右  
城に皇將城に信長將代に之常其時  
西賀大炊取之其役因因別部在城跡之市  
常事之依道心の手討て其跡山口半屋の  
居城也守之城は山口海左之居居城皇將

笠寺其間其下也中村城今根村有之  
是山左馬助若政此左馬助愛智小  
翼之愛智左馬助同心信長之同心有之  
其此二部村水之津後之有使令之  
兵糧之部村城之入駿河勢之  
川也之内城之津後之兵糧之勢之  
退之兵糧之津之及之同心之  
信長之山口也之部村左馬助中村  
城之鳴海之城之信長左馬助之

思君の川三列吉田之行駿河方君の城也  
吉田之左馬助改右水之新屋の中は信長  
津討及之の部村依河軍の部村也  
梅吉田の家老の部村為之の部村  
家老の部村也信長吉田の部村  
左馬助部村也又義元合戦の時駿河元園部  
切後之部村又義元合戦の時駿河元園部  
其部村也鳴海之城之入之義元討死後  
鳴海之城將也駿河の部村也



三友歌

右之三郭村海客行時事及之

一義元合戦時駿河元園郭忠孝が本吉合  
明海村より上中折敷屋の中百姓の所へ  
義元より召し寄りて折敷屋を三日にわた  
りて鳴海より善照寺の中折敷屋より  
此中折敷屋の信長元久中折敷屋より  
鳴海より右折敷屋より道二の折敷屋より  
右折敷屋より折敷屋より一合戦の時

鳴海より中折敷屋より折敷屋より  
右折敷屋より折敷屋より義元桶狭間の山出陣より  
右折敷屋より折敷屋より折敷屋より折敷屋より

高僧戒律中書

一高僧戒律中書

一高僧戒律中書

一高僧戒律中書

一十七歳時海客の村より

中折敷屋より

一十八歳之時按律伊丹之塩川伯耆の地を  
伊勢中右衛門一雨と名付て長谷川伯耆  
首波持事と名付て村長に改め

一存心之誠を以て是地を治め、  
合戦に別心せず

一山龍寺合戦時心せず

一三好山龍寺法林の山君、中時を以て改め、  
四心、義城改め、時働

一阿波高津和泉國本郭、改め大場、  
一雨

働

一三好山龍寺の秀治、人徳山守時、  
之教、加り秀治、大小姓、  
改め

一秀治、水光、  
大山小八、  
大物、  
加り、  
之後、

一秀治、水光、  
大山小八、  
大物、  
加り、  
之後、

大文の昭川志麻の... 孫也... 一切... 志麻... 大文... 切...

一 秀功... 文禄二年七月十日... 豊長盛政改名高野...

一 秀功... 昭川志麻... 昭川志麻... 昭川志麻...

一 昭川志麻... 昭川志麻... 昭川志麻... 昭川志麻...

但別旗本... 其後長尾形部... 松平安房... 壬午四月廿九日八十三歳...

尾崎半平清正武功...

一 三列東条... 味方原合...

一 同城... 追報...

系者之川中... 後... 押伏  
討取

一 遠別牧... 歌... 来... 人... 伏  
首... 中... 後... 首...  
我... 家... 劫... 首...  
侍... 持... 御... 首...  
如... 中... 首...  
吳... 地... 他...  
又... 歌... 後... 持... 先...

又... 首... 家...  
馬... 折... 劫... 劫...  
... 侍... 持...  
某... 首... 持...  
家... 劫... 首...  
... 劫... 劫...  
... 劫... 劫...  
... 劫... 劫...

一駿河持身城へ参入材木の積とある事  
城守夫打向井伊賀守と良久敷た方終切替  
首出

一松田新治等と云有討取也

一石川夜討年<sup>物</sup>初陣<sup>物</sup>中平<sup>物</sup>石仕<sup>物</sup>初陣<sup>物</sup>  
首出

一家原と後府山側特是の救と討於中平  
人との討し但是の世との物

一駿河之夜討と云行武者と誰討と云

生年島と云然と云厚の<sup>物</sup>定信首と云  
前討取と云有た<sup>物</sup>と云也

一田中<sup>物</sup>の城へ因防<sup>物</sup>手働<sup>物</sup>あけ<sup>物</sup>土曲輪<sup>物</sup>押込<sup>物</sup>  
時後部<sup>物</sup>治<sup>物</sup>と云あけ<sup>物</sup>土曲輪<sup>物</sup>へ押入<sup>物</sup>た<sup>物</sup>方<sup>物</sup>  
敵<sup>物</sup>強<sup>物</sup>と云己<sup>物</sup>危<sup>物</sup>と云<sup>物</sup>討<sup>物</sup>中<sup>物</sup>平<sup>物</sup>等<sup>物</sup>有<sup>物</sup>為<sup>物</sup>勢<sup>物</sup>  
切<sup>物</sup>為<sup>物</sup>と云首<sup>物</sup>出<sup>物</sup>と云<sup>物</sup>中<sup>物</sup>平<sup>物</sup>と云<sup>物</sup>方<sup>物</sup>  
多<sup>物</sup>物<sup>物</sup>と云也

一於尾別<sup>物</sup>各<sup>物</sup>家<sup>物</sup>原<sup>物</sup>と云言<sup>物</sup>と云<sup>物</sup>別<sup>物</sup>と云

一大坂陣仕尾義と云<sup>物</sup>旗<sup>物</sup>と云<sup>物</sup>行<sup>物</sup>勤<sup>物</sup>政<sup>物</sup>内<sup>物</sup>助<sup>物</sup>

久遠之勢論

權現神久遠之勢論  
終之志也  
物類付之也

權現神を列し可き方成御出馬の忠節  
遠州の好井山家好井山家好井山家  
伯耆守平尾好  
伯耆守平尾好

所陣取の事  
伯耆守平尾好  
伯耆守平尾好  
伯耆守平尾好

權現神久遠之勢論  
伯耆守平尾好  
伯耆守平尾好  
伯耆守平尾好

可事我子の丹意有るは忠孝可仕る方  
右之人有る致は復た<sup>おつて</sup>柳川を<sup>おつて</sup>忠  
者夜半久堂八套の<sup>おつて</sup>中者<sup>おつて</sup>忠孝可仕る  
相圖と<sup>おつて</sup>定免川<sup>おつて</sup>人救世<sup>おつて</sup>前後  
再後<sup>おつて</sup>應對<sup>おつて</sup>其心<sup>おつて</sup>為<sup>おつて</sup>少<sup>おつて</sup>中<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>極  
池<sup>おつて</sup>之<sup>おつて</sup>由<sup>おつて</sup>一<sup>おつて</sup>つ<sup>おつて</sup>者<sup>おつて</sup>少<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>中<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>極  
少<sup>おつて</sup>た<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>波<sup>おつて</sup>者<sup>おつて</sup>と<sup>おつて</sup>為<sup>おつて</sup>力<sup>おつて</sup>入<sup>おつて</sup>重<sup>おつて</sup>石<sup>おつて</sup>に  
三<sup>おつて</sup>弟<sup>おつて</sup>在<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>告<sup>おつて</sup>少<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>以<sup>おつて</sup>別<sup>おつて</sup> 檢<sup>おつて</sup>取<sup>おつて</sup>取<sup>おつて</sup>中<sup>おつて</sup>定<sup>おつて</sup>免  
三<sup>おつて</sup>弟<sup>おつて</sup>在<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>告<sup>おつて</sup>少<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>以<sup>おつて</sup>別<sup>おつて</sup> 檢<sup>おつて</sup>取<sup>おつて</sup>取<sup>おつて</sup>中<sup>おつて</sup>定<sup>おつて</sup>免  
三<sup>おつて</sup>弟<sup>おつて</sup>在<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>告<sup>おつて</sup>少<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>以<sup>おつて</sup>別<sup>おつて</sup> 檢<sup>おつて</sup>取<sup>おつて</sup>取<sup>おつて</sup>中<sup>おつて</sup>定<sup>おつて</sup>免

後<sup>おつて</sup>諸<sup>おつて</sup>孫<sup>おつて</sup>に<sup>おつて</sup>其<sup>おつて</sup>事<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>傳<sup>おつて</sup>へ<sup>おつて</sup>る<sup>おつて</sup>方<sup>おつて</sup>存<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>  
中<sup>おつて</sup>之<sup>おつて</sup>方<sup>おつて</sup>に<sup>おつて</sup>傳<sup>おつて</sup>へ<sup>おつて</sup>る<sup>おつて</sup>方<sup>おつて</sup>存<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>

一 果<sup>おつて</sup>別<sup>おつて</sup>勢<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>別<sup>おつて</sup>く<sup>おつて</sup>お<sup>おつて</sup>勵<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>以<sup>おつて</sup>人<sup>おつて</sup>生<sup>おつて</sup>二<sup>おつて</sup>五<sup>おつて</sup>及<sup>おつて</sup>西<sup>おつて</sup>島<sup>おつて</sup>荒<sup>おつて</sup>  
而<sup>おつて</sup>之<sup>おつて</sup>其<sup>おつて</sup>事<sup>おつて</sup>に<sup>おつて</sup>以<sup>おつて</sup>因<sup>おつて</sup>お<sup>おつて</sup>抱<sup>おつて</sup>勉<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>對<sup>おつて</sup>は<sup>おつて</sup>傳<sup>おつて</sup>へ<sup>おつて</sup>る<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>

中<sup>おつて</sup>之<sup>おつて</sup>方<sup>おつて</sup>に<sup>おつて</sup>傳<sup>おつて</sup>へ<sup>おつて</sup>る<sup>おつて</sup>方<sup>おつて</sup>存<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>

一 信<sup>おつて</sup>去<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>別<sup>おつて</sup>く<sup>おつて</sup>由<sup>おつて</sup>諸<sup>おつて</sup>孫<sup>おつて</sup>に<sup>おつて</sup>其<sup>おつて</sup>事<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>傳<sup>おつて</sup>へ<sup>おつて</sup>る<sup>おつて</sup>方<sup>おつて</sup>存<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>  
一 長<sup>おつて</sup>隆<sup>おつて</sup>治<sup>おつて</sup>治<sup>おつて</sup>の<sup>おつて</sup>原<sup>おつて</sup>之<sup>おつて</sup>を<sup>おつて</sup>神<sup>おつて</sup>傳<sup>おつて</sup>へ<sup>おつて</sup>る<sup>おつて</sup>可<sup>おつて</sup>

持舟甲列後向小牧山而陣外所  
印出馬一匹致後中一不取是也傳又  
後之在陣之時也度山列於數色  
以氣付連中傳之也或曰傳系於  
相果初也

一系圖并書也永祿年中中失中傳  
取書牙不中姓也

一園東山全列下總之九子原全野領仕  
武部之傳也

相果初也後入道後大寺也  
知行寺石市也  
山陣以後久會入道後致志弟一者也  
別也  
海老白唐突也

一天正六年庚子月八日天祥也  
大原也  
孫也  
柱現也



同景後身菅沼在是久世三宮所川向  
大酒智五高村の以上二宮あり

一 卯七月十日高天神城服川村之大酒智  
景高の者樹合時首丑九月以世三宮所川向  
深景一磐山傳八二園根孫史一唐景一  
載源文源景系 植根孫三卯年所川向  
柳景一内景三宮の三宮所川向中景一  
見景一内景三宮の三宮所川向中景一  
一 天正七年卯七月廿二川村多景一

景高の首七九月所川向三宮所川向  
城三景一内景三宮の三宮所川向中景一  
唐景一内景三宮の三宮所川向中景一  
景高の首七九月所川向三宮所川向  
卯年所川向三宮所川向中景一  
以上三宮所川向三宮所川向中景一  
景高の首七九月所川向三宮所川向  
卯年所川向三宮所川向中景一

一天正八年辰三月廿五日壬午神武天皇  
鳥嶋(菅沼)出竹末(菅沼)前(菅沼)景

掛有大小の鏡を各中より七人三人の首を以て世  
三第一首を以て一逆反我の二逆反源を第一  
三首の二首中則武源又 権現を以て即年中  
お坂の坂を鳥居を以て日夜三首の二首を以て  
人殺し助を以て心累の首を以て

一辰八月二日お坂の坂を以て即年中  
お坂の坂を以て鳥居を以て日夜三首の二首を以て  
人殺し助を以て心累の首を以て  
一辰八月二日お坂の坂を以て即年中  
お坂の坂を以て鳥居を以て日夜三首の二首を以て  
人殺し助を以て心累の首を以て

牧多の業を以てお坂の坂を以て即年中  
お坂の坂を以て鳥居を以て日夜三首の二首を以て  
人殺し助を以て心累の首を以て  
一辰八月二日お坂の坂を以て即年中  
お坂の坂を以て鳥居を以て日夜三首の二首を以て  
人殺し助を以て心累の首を以て

一天正十年八月十日甲辰信守の  
我輩の相陣を待向永一歌傳の中村権原



無人教居者加海里場山旅中一海  
深寺林松屋の若原陸共三人毎の場  
一里山程をこえりて 権現松の前の今  
志丘右明松の馬可成り山言ぬ  
右之丘中未く七段之元未明の押中少く  
柵之木の間二宮三宮の由の力をこめり  
木之夜之切柵の多し一入の理之  
不之松夜之木之柵の味方書言  
月久世之常居馬の鏡或中三柵の川

突崩れ陣之遊取中少少中一高名久世二  
串間又四第一正回傳市一店屋の一鏡下首四  
其外式大洞實立長一柵柱又少の柵中少  
月園歌の八人々一相刺首一  
権現松の前の高名松の者少く我等馬子  
出歌合近の産少の丹軍の常産又實  
味方月少物少余者道之給歌陣の方  
何味方川路居中少安の川少  
月川少又少一歌少好七段者皆少

久世三軍之居也。其人皆好也。其下少。其下少。其下少。  
 中平之也。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。  
 再。久世。久世。久世。久世。久世。久世。久世。久世。

一天正三年甲子六月十八日尾州蟹江之坂子督時  
 濑川義孝伊勢之九君永手而切以決漕拔  
 半之也。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。伊夜。  
 吉原。吉原。吉原。吉原。吉原。吉原。吉原。吉原。  
 其外首多。是。是。是。是。是。是。是。是。  
 阿部。阿部。阿部。阿部。阿部。阿部。阿部。阿部。

一天正三年乙丑五月廿日長尾之山。其時初陣

之能者之討捕

一天正三年甲子四月九日尾州長久山。其時

一采首討生捕

一天正三年三月廿日。其時善光之山。其時

老。老。老。老。老。老。老。老。

尾州首

一天正九年春。尾州。其時。其時。其時。其時。其時。其時。

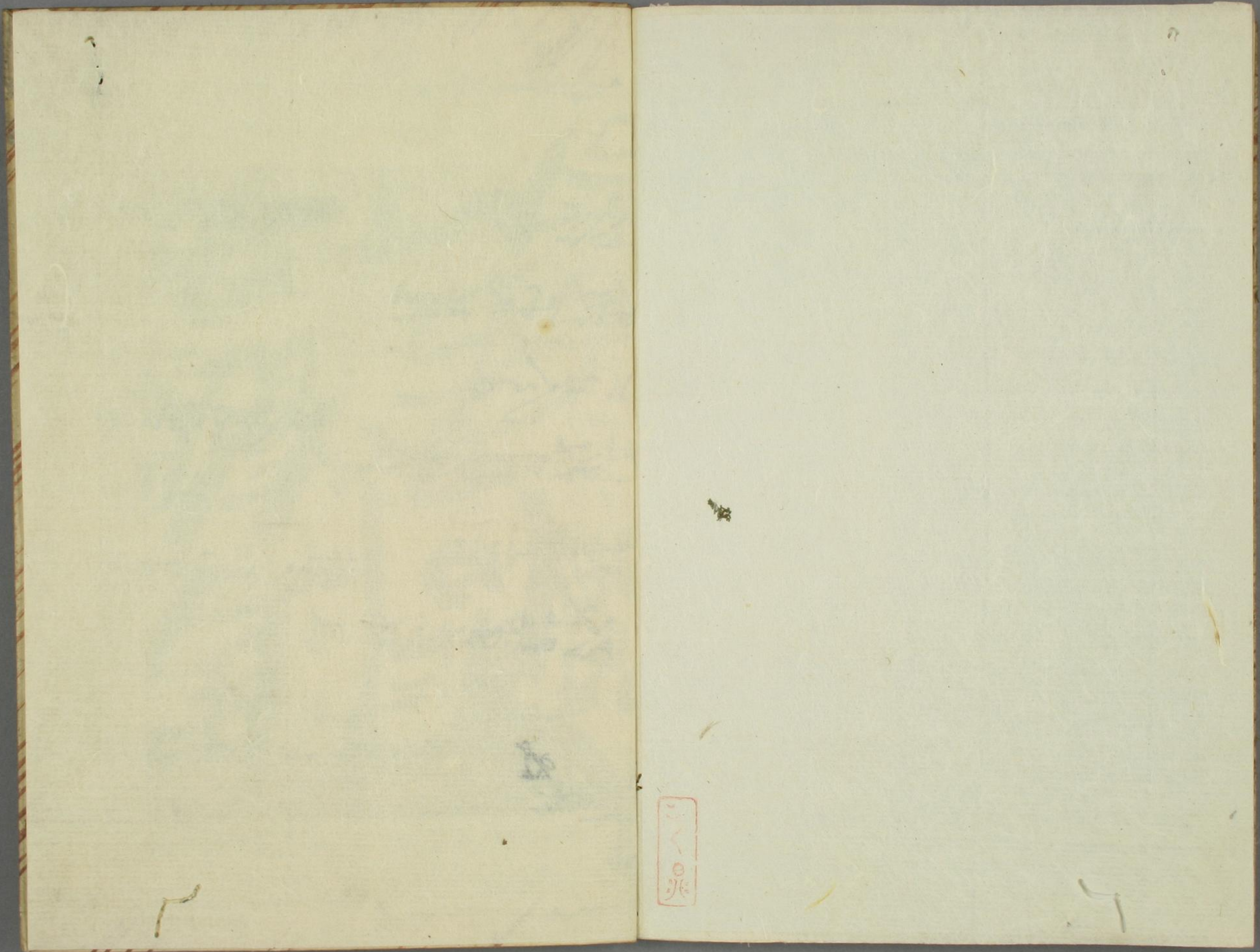
一天正三年四月。尾州。其時。其時。其時。其時。其時。其時。

樽市之海女之肩中丸是輕一五人甘多之致  
 下知獲施之七名者之張子之丸返也  
 一甲之月六日大坂の街に將馬之入能右之致  
 中丸之割人世之四行本多之云子之丸人  
 首之丸也

以上首致十四至補之人

右愚心聞集者誰延聞書仁也不知  
 實仁古寫本仁志天最珍書外可謂  
 或家塾藏書成志遠借得元寫者  
 城東杉邑野相乃本延珍文鑑乃  
 至人也

甲辰之玄猪



二  
く  
○  
天

